

1 江別市のプロフィールと都心地区

江別市のプロフィール

▽位置

石狩平野の中央部に位置する江別市は、最も高い所で海拔83m、起伏が少なく、なだらかな地形を特徴として、東西17.3km、南北18.1km、総面積187.57km²を有し、西は札幌市、南は北広島市、北は当別町、東は新篠津村、岩見沢市、南幌町に隣接しています。

▽概要

行政区域面積：18,757ha
市街化区域面積：2,930ha
市街化調整区域：15,827ha

▽特色

- 札幌圏の成長都市：人口12万4千人（H17）、道内8位
- 緑豊かな環境：石狩川、道立自然公園野幌森林公園（2,051ha）
道立野幌総合運動公園（64ha）、鉄道林（約48ha）
- 道内有数の大学都市：4大学2短大（学生数～約15,000人）
- レンガのまち：地場産業野幌レンガ（全国生産高第1位）
- 研究、研修施設の集積：RTNパーク（先端技術産業集積地）、
北海道自治政策研修センター、
道立食品加工研究センター、
北海道電力総合研究所、他

江別市の位置



ガラス工芸館

都心地区の位置付け

江別市では、平成16年度から第5次江別市総合計画がスタートしており、その中で「人が輝く共生のまち」を将来都市像としてまちづくりを進めています。

この将来都市像を見据え、安全で快適な都市生活の充実を図るため、地理的にも江別市の中心に位置し近年、商業・業務施設の集積が進んでいる野幌駅を中心とした約240ヘクタールの区域を都心地区と位置付け、都市機能の充実や賑わいのある都心づくりを目指す「江別の顔づくり」を推進しています。

鉄道両側に広がるマンション群



国道12号沿道

まちづくり上の背景と野幌地区

江別市は、国道12号を都市軸としてJR函館本線の鉄道駅を中心に3地区（江別・野幌・大麻）に平均した人口が配置され、東西方向に連担しながら市街地が形成されてきました。

そのため、3地区にブロック化した都市構造となっており、都市の顔となるような中心性の高い地区が形成されないまま市街地が発展してきました。

しかし近年、野幌駅周辺地区では国道12号沿道等の商業・業務の集積や駅周辺での飲食店（約150店）の集積などが顕著となっており、また、JR函館本線の高速化（区間快速）や旅客本数の増大に伴い、札幌都心部へ15分という便利な立地条件から、住宅地開発や駅周辺でのマンション開発が活発に行なわれてきています。

これに伴い野幌地区の人口は急速に増加しており、江別・野幌・大麻の3地区の中では、最も都市化が進んでいる地区となっています。

また、近隣には先端産業を集積したRTN地区や、地域交流の核となる道立野幌森林公園・野幌総合運動公園等もあり、都心としてのポテンシャルが高まっています。

